ISSN 0919-4657

KONC

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

関西自然保護機構会誌

26巻1号（通算47号）

特集記事　雑種は従来のタンポポ調査を変革する



2004年6月
関西自然保護機構

表 紙 の 言 葉

「ナガレヒキガエルの抱接ペア」

写真　戎谷　秀雄
文　辻　　広志

カエル類では，繁殖期に雄が雌の背中に抱きついている状態を「抱接」という。ナガレヒキガエルの雌は雄を背負いながら，渓流の流れの中で産卵場所を探さなければならない。時には上流の淵を目指して崖をよじ登ることもある。この写真のペアは数mの高さの滝を登ろうとして失敗した。小さな雄は大きな雌の背に負ぶってもらって楽をしているように見えるが，実際は雄も必死である。体外受精をするカエル類においては，雌が産卵するまでの間，雄はライバル雄に雌を奪われないように防衛する必要がある。そのため繁殖期の雄の指には滑り止めの「婚姻瘤」と呼ばれる指ダコが発達している。ナガレヒキガエルの繁殖期間は2週間ほどに限られているため，一度獲得した雌を絶対に失うことのないように，特に力を込めてガードする。ヒトの大人の手で引き離すのも難しいくらいだ。ふつうは1～2日，最長1週間近くもの間，雄は雌を抱きしめ続ける。カエルの世界でも子孫を残すのは容易なことではない。

写真のナガレヒキガエルのペアは，三重県一志郡美杉村にある三重大学演習林内の平倉川上流で，1992年4月9日に撮影された。

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organazation for Nature Conservation）

KONCは自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現在，次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・維持会員の会費により，まかなわれています。